



12月号

学校だより

育ち学ぶ当事者 支える当事者 下福田小学校

- よく考える子
- 思いやりのある子
- 健康で明るい子
- がんばる子

令和6年12月2日

優しい気持ちのリレー

学校長

寒さが増すにつれ空気が澄んだ日も多くなり、高座渋谷駅から下福田小学校へ向かう道から富士山が見えることも増えました。今年は冠雪の遅いことがニュースにもなっていました。今は頂上から雪を纏ったバランスがよく、いかにも「富士山」という姿を見せてくれています。気づけばもう12月。今年もあとひと月を残すばかりとなりました。

我々教職員は日々の授業の中で教科指導にあたっていますが、その工夫や改善のために「校内研究」というもので研鑽に努めています。本校では今年度、「いきいきと表現できる下福っ子～学びに向かう楽しさを体感できる授業づくり～」という主題を設定し、今はまとめで向けて先生たちが頑張っているところです。校内研究は当然ながら各校でも取り組まれており、時には市内や県内他市の学校に出向き、それぞれの取り組みを学びに行くこともあります。

少し前、川崎市の研究発表に参加する機会がありました。全県の少し規模の大きな発表ということもあり、進行の合間に川崎市の広報ビデオが流れていました。初めはなんとなく見ていましたが、その内容にととても引き付けられました。それは、ある人が困った人を見つけ、本人が気づかないうちにそっと手助けをし、その様子を見ていた人が、別の機会に困った人に手を差し伸べる、それを見ていた別の人がまた手助けをする、というものです。困った様子は車いすや白杖（視力の弱い人が歩く際に必要な杖）の人、テーブルから飲み物が落ちそうになった人、遊園地でもらった風船が飛んで行ってしまった子など様々です。

愛情が基盤となる親子の間は別として、人が手を差し伸べてくれる時は、思いやりや善意によります。それは当たり前のもではなく、感謝をしなければならないことです。

下福田小学校のあるこの地域には、優しい思いの方がとても多いと感じています。地域を担う未来の人材である子供たちが、周りの大人が手を差し伸べてくださっている様子を見て、次に自分が行動できる思いが育ち、優しい気持ちがリレーのようになっていくことは、とても素敵なことだと思います。

月末には年の瀬を迎えます。子供たちは冬季休業中に、ご家族とゆっくり過ごすだけではなく、親戚の方や地域の皆さんと触れ合う機会もあるかもしれません。普段とは違った時間の中で、また一回り成長してくれることを期待しています。

これから冬本番となる中、見守りの方は寒い中でも雨の日でも、子供たちの登下校の安全にご尽力くださっています。無報酬での皆さんには、「ありがとうございます」、「助かっています」の言葉だけが支えとなります。その善意に気づき感謝を伝えることのできる子供になってほしいと思っています。